

新型コロナウイルスの感染予防に 注目されるお口の衛生管理



歯科医師 飛田 晴康先生

飛田歯科医院 院長
1985年大阪歯科大学卒業。東京都港区、
京都府南丹市、神戸市東灘区の歯科医院勤
務を経て、2005年から現職
◆住所 岡山市北区広瀬町11-19
◆☎086-222-3194



教えて！ドクター

人生100年時代 歯を長持ちさせよう！

Vol.1



とびた先生の歯科Q&A

「教えて！ドクター」のコーナーは、読者の皆さんが普段気になっている健康・医療情報を発信しています。今回からは、「とびた先生の歯科Q&A」（2カ月に1回掲載）が加わります。回答は「人生100年時代、歯を長持ちさせよう」と活動している飛田晴康先生（飛田歯科医院院長）です。

A

現在は、COVID-19（新型コロナウイルス）の緊急事態宣言も全面解除され、徐々に元の生活に戻されている方も多くなってきたようです。

4月末に日本歯科医師会からは、「歯科治療を通じて患者が新型コロナウイルスに感染した例は1件もない」との発表があり、その後の報道でも変わりはないようです（2020年6月中旬）。このことから、歯科医院が際立って感染症に罹患（ひか）するリスクが高いとは考えられないと思えます。

あくまで、何と比較するかによってそのリスクは異なりますが、さまざまな状況を踏まえて判断していただければよいと考えます。

Q

虫歯の治療も終わって今は、普通に食事ができているのですが、友人から「歯科医院での定期健診は受けた方がいいよ」と言われました。定期健診に意味があるのでしょうか。（岡山市、A子）

100年前の調査でも、 口腔衛生管理をすれば 感染症の罹患率が低下

この機会に感染予防の観点からお口の衛生管理と考えられています。

中でも東京歯科大学の奥田克爾名誉教授が新聞に寄稿されている内容を紹介します。

アメリカ歯科医師会研究所の初代所長やアメリカ歯科医師会会長を務めた歯科医師のウエストン・プライスは、100年前のスペインインフルエンザ（H1N1型）の流行時にアメリカ人とイギリス人260人を調べました。

その結果、歯科感染症のあった人は、インフルエンザに罹患した群で72%に達し、重篤者が多かったのですが、歯科感染症のなかった人の罹患率は32%でした。その理由はインフルエンザやコロナウイルスが気道粘膜上皮細胞へ進入する時に歯

これからの新型コロナウイルスと共存していくためには、日々のお口の衛生管理を頑張っていたことが大切だと思います。冬のインフルエンザの流行までには歯科医院での定期健診の受診を考えるとはいかがでしょうか。